

3 交通安全における実践事例

交通安全①

体験的な学習を取り入れた自転車の安全運転の意識を高める 学習事例

高等学校 全学年 特別活動（ホームルーム・学校行事）

単元（題材）について

1 題材名 自転車安全利用について考えよう

2 安全教育上の目標

Ⅱ－2 自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通法規を守って安全に乗車することができるようにする。

3 教材化の視点

通学等で日常的に自転車を利用する機会が増える高校生には、交通ルールや歩行者、交通弱者の視点に立った安全運転を身に付けることが必要である。

本単元では、「自転車シミュレータ」、「スケアード・ストレイト方式※」による体験的な学習を取り入れ、自転車利用の危険性について学び、生徒が自転車の安全運転の意識を高める学習を設定する。生徒には、これまでの自転車運転の経験を想起させた上で、社会における自転車安全利用の重要性を理解させ、自転車の安全運転の意識を高めさせる。

※スケアード・ストレイト方式…スタントマンによる交通事故再現による交通安全教育

指導計画（4時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	○登下校時における危険箇所を想起する。 ○自転車安全利用五則を確認する。	◎これまでの自転車の利用の仕方について振り返らせる。
2 (本時)	○自転車シミュレータを体験する。 ○様々な場面における危険性を予測する。	◎映像から「自分なら、どのように予測するか」などを考えさせる。
3	○交通安全座学講習会を受講する。	◎知らなかった交通ルール・交通マナーについて確認させる。
4	○交通事故の発生状況について知る。	◎「スケアード・ストレイト方式」を通して、自転車利用時の危険性に気付かせる。

指導の工夫

「自転車シミュレータ」、「スケアード・ストレイト方式」の体験的な学習を基に、様々な場面における危険性について予測させる機会を設定する。

